

基盤整備の姿勢として

安心ある村をつくります

ております。

また、黒崎前浜く北山崎までの「遊歩百選」認定コース、「日本の灯台50選」認定の黒崎灯台、黒崎大岩展望台から一望できる「普代、野田ヤマ七景観」認定の絶景などをセイルスポイントとして、今後の観光イベントへの活用を引き続き考えてまいります。

防災機能の確立

国内では異常気象などによる災害が続発し、特に台風21号による被害、新潟県中越地震の被害は多大でありました。国外ではスマトラ沖の地震津波による災害が発生し、30万人以上の死者、いまだ見つかからない行方不明者の捜索、食料や医薬品の不足など、その救済支援活動に国連が立ち上がり復興に当たっていることが報道されています。

本村も太平洋岸に面し過去何度となく津波の被害を受けており、その教訓を決して忘れてはなりません。災害が発生した場合に備えての防災対策に万全な取り組みを行い、

各河川の洪水対策、消防活動体制の整備、防災ネットワークの充実、津波発生時の緊急連絡体制整備などに引き続き取り組んでまいります。

主要道路の整備を推進

道路網の整備

主要都市への幹線道路の早急な整備の必要性を国、県などに働きかけ、また、村内生活道の整備を計画的に進めてまいります。

国道45号普代バイパス工事は、北側から2キロメートル区間を平成18年度の供用開始を目標に進めていただいておりますので、予定どおりの供用開始に向け努力してまいります。今後残る2キロメートル区間も合せ、関係者各位のご協力をお願いしてまいります。

また、市街地直角T字路の改良は数年かかりましたが、局部的な

歩道整備が実現しました。県道の防災工事、改良工事では、黒崎地内の防災工事、芦渡地内の改良工事が引き続き実施される予定であります。待望久しい早坂トンネル工事も貫通し、前後の工事も順調に進められ県都盛岡市までの90分構想実現に向けて、大きな期待が寄せられております。

このことは本村の産業経済の振興、広範な交流連携促進など村発展に資することが多大であり、この波及効果を有益に活用する取り組みを引き続き進めてまいります。

居住環境の充実

快適な居住環境の実現に向けて、浄化槽の設置を図るとともに、漁業集落排水施設等

汚水処理の一体的かつ効率的な整備に取り組み、また、若者や子育て世代の定住を進めるため、宅地の供給や身近な公園整備などが求められており、引き続きそれら対策に取り組みでまいります。

保健医療福祉の充実

健やかで安心できる暮らしを実現するために、保健、医療、福祉の一体的な取り組みの展開が必要なことから、保健面では保健センターの機能を生かし、指導体制を強化するとともに、医療面では内科・歯科診療所の活動に期待を寄せ、福祉面ではうねとり荘を中心に老人たちの介護支援をいただきます。

村で早くから力を入れていく、子育て支援につきましては、子育て支援室の継続と児童館との連携を密にし、さらなる支援体制整備に向け、村民のボランティア活動の呼びかけなどを進め、環境整備に取り組み考えております。

なお、救急体制も普及分署に高規格救急自動車の配備により救急救命士2人が配置され県立久慈病院への搬送もより充実され、村民が安心して暮らせる条件も整ってきたものと考えております。



「遊歩百選」や「日本の灯台50選」に認定された村の自然

快適な生活 環境を整備

自然環境の保全と活用

快適な暮らしの実現に向けて、すべての村民に自覚と行動を促し、全村民にその必要性を呼び掛けを行っているところであり、事業の実現には至っておりませんが、近年注目されているところの自然エネルギーの活用施策にも引き続き取り組みたいと考え



工藤 一郎 所長。安心できる暮らしはだれも願っています。